

クリスマスの喜び

姫路あけぼの教会 廣田守男

「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」
(ルカの福音書 2 章 10 ～ 11 節)

巷には「ジングルベル」や「もろびとこぞりて」などのクリスマスソングが流れ、またクリスマスのデコレーションが見られ、華やかな時期を迎えております。余り景気がよいようには思えませんが、何かうきうきした気分させられる思いです。それはクリスマスシーズンを迎えているからではないでしょうか。

人々がなぜそのような思いを抱くのでしょうか。そこには「喜び」があるからです。では、クリスマスの喜びはいったい何処にあるのでしょうか？ それは「救い主イエス・キリストが生まれられた」からです。それは誰のためでしょうか？ 「この民全体のため」即ち「わたしたち一人ひとりのために」です。それでは何処でお生まれになったのでしょうか？ 「ダビデの町（イスラエルのベツレヘム）」においてです。ひとりの赤ちゃんが誕生したのですが、何によってその幼子が「救い主」であることとしるしとなったのでしょうか？ 「布にくるまって飼葉桶に寝ておられる」ことなのです。

以前に病院で赤ちゃんの取り違えがあり、問題になったことがあります。それは赤ちゃんのしるしを見間違えたからです。しかし「救い主のしるし」は普通の人と違って、一目瞭然すべての人に明白にされているのです。即ち、ヨセフとマリヤが人口調査の旅の途中、馬小屋で誕生されたからなのです。これは貧しい誕生をされたことを意味しています。「飼葉桶」というのは私たちが想像する木製などで作られたものではなく、冷たい石の上であったのです。むさ苦しい自己中心に満ち、悪意に溢れ、また愛情のかけらもないこの世の中に、また私たち一人ひとりの心の内に宿るために主イエス・キリストは生まれてくださいましたのです。私たち一人ひとりを救う救い主として貧しくなってくださいましたのです。ここに神様がどんな人をも愛していてくださることを明らかにしているのです。

世の中全体が勝ち組を認め、弱い者に冷たくなっている昨今ですが、そのような一人ひとりを愛していてくださる御方がおられることを是非知って頂き、神様の救いに与って頂きたいと願っております。